

SAMPLE

特集レポート No. 004

国内外におけるスマート農業の動向

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 日本の農業現場の生産性向上が叫ばれている
- かつて日本と同様の境遇であったオランダはとある方法で生産性を飛躍的に向上した。その高い生産性の秘密が農業のスマート化、すなわち「スマート農業」であった
- 「スマート農業」は日本でも注目されるようになり、農業の生産性向上の解決策として日本政府による後押しも厚くトヨタや日立製作所など異業種大手企業が軒並み参入している国内有数の急成長市場である
- 本レポートでは、発達するスマート農業を「精密農業」、「栽培支援ソリューション」、「植物工場」、「農業用ロボット」等のカテゴリに分け、国内外の幅広い事例を紹介することで最先端農業の動向を探る

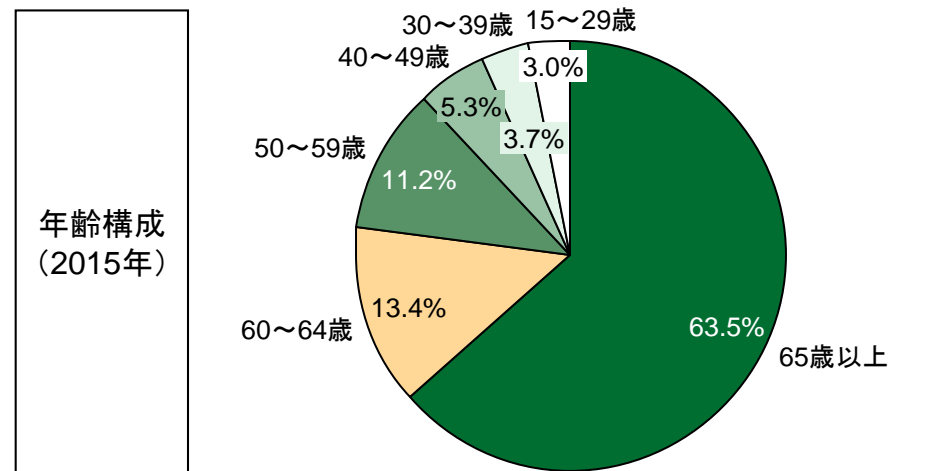
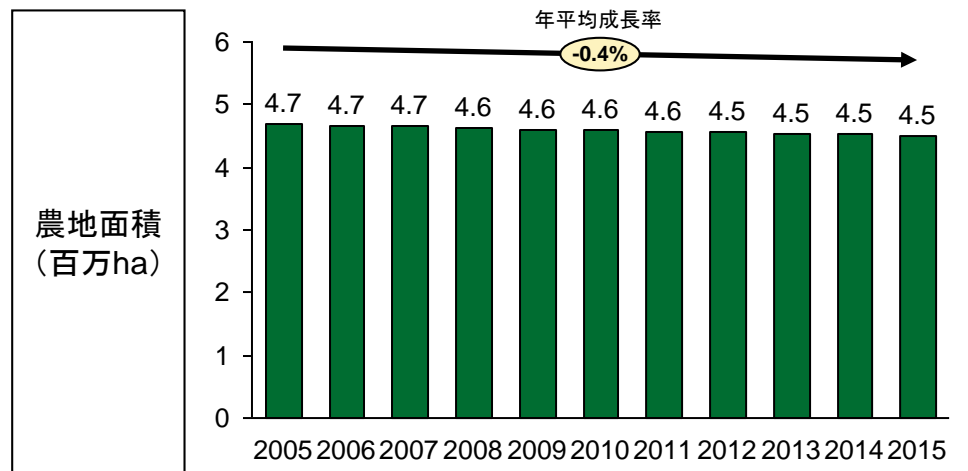
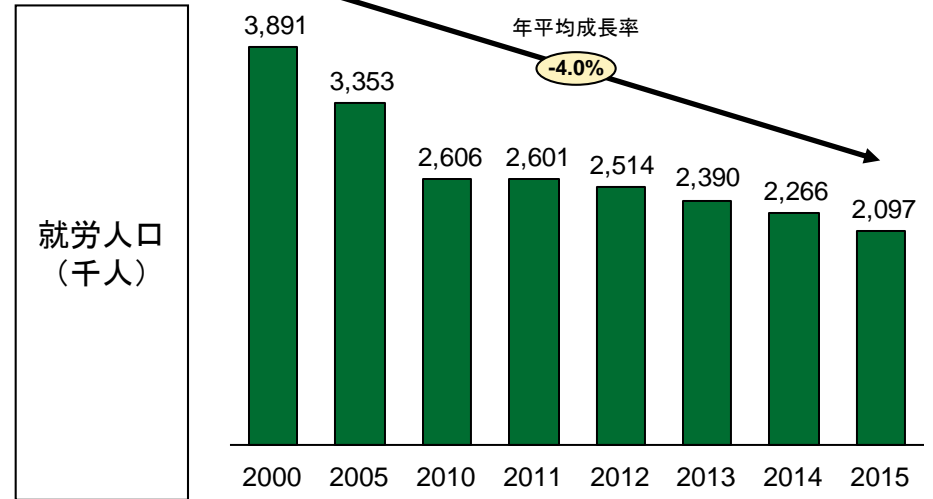
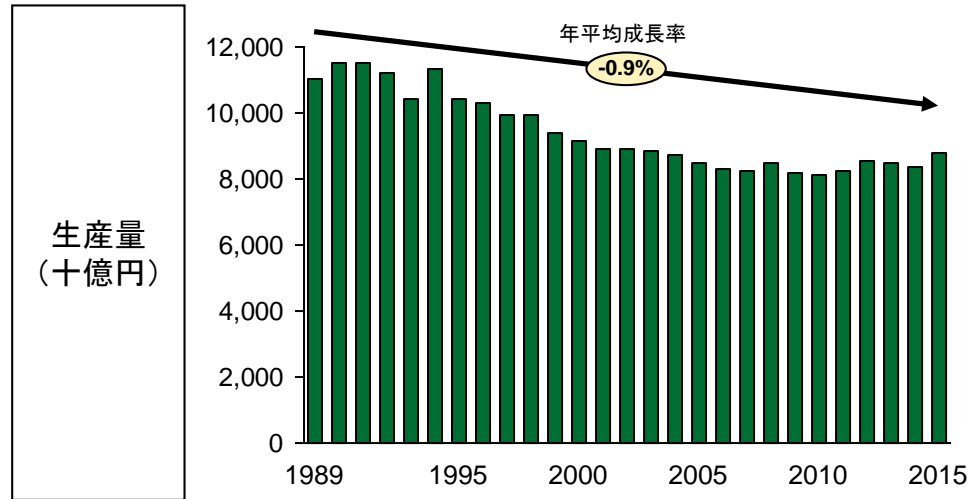
本資料の流れ



- I. スマート農業とは
- II. 国内外先進事例の紹介

日本の農業の現状

- 日本の農業の生産の現場は就労人口の減少、高齢化に見舞われ衰退している
 - 国内消費の減少や、輸入の規制緩和などが徐々に起こり、国内の農業生産は厳しい環境にさらされた

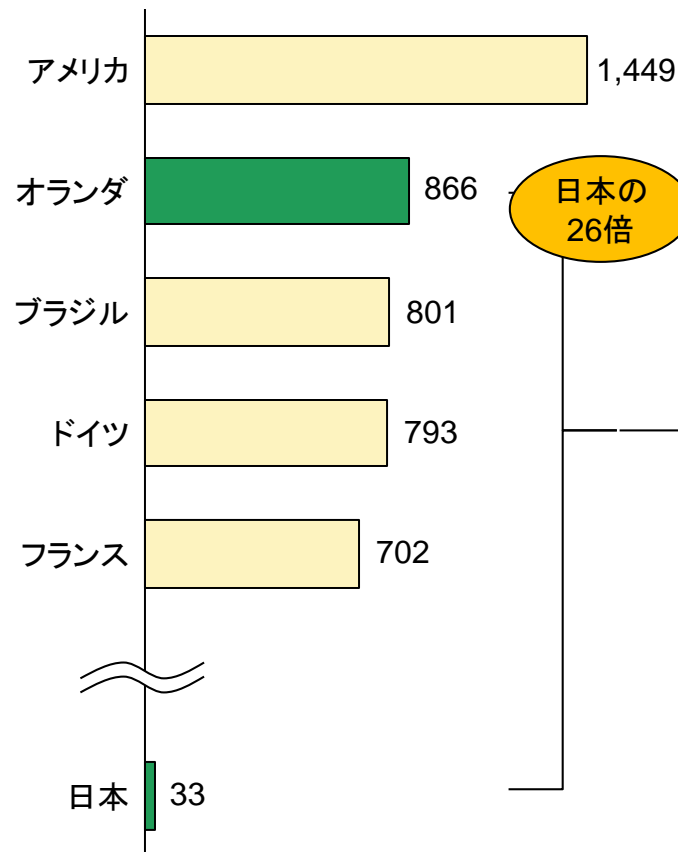


出所：農林水産省「平成25年生産農業所得統計」、「作物統計」、「耕地面積」、「2015年農林業センサス」

「スマート農業」先進国オランダの現状

- 農業輸出大国であるオランダは、「スマート農業先進国」
- 高付加価値農産物への絞り込みやICT化を積極的に推進することで日本の26倍の輸出高を記録している

農産物輸出高(2010、単位:億ドル)



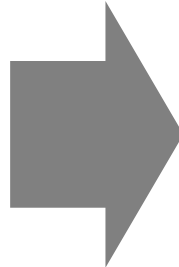
日本		オランダ	
1.2億人	人口	1,600万人	13%
305万人	農業人口	43万人	14%
37.8万km ²	国土	4.1万km ²	11%
456万ha	農地面積	190万ha	41%
35.6度(東京)	緯度	52.3度(アムステルダム) →樺太と同程度	
高い、長い	気温・日照時間	低い、短い	
923円/時	パート人件費	2,000円/時	2倍超

オランダ
農業の
競争力

- 高付加価値農産物への絞り込み
 - トマト、パプリカ、きゅうり、イチゴなど、単位面積当たりの利幅が高い品目に特化
 - 一方、利幅の薄い品目は輸入に頼っており、食糧自給率は14%と低い
- ICT化(スマート農業化)
 - 環境管理されたハウスでの栽培(気温、光量、CO₂濃度、肥料の量、など)
 - 世界各地の需要調査と、それに合わせた生産管理
 - ロボットの導入・活用、など

スマート農業とは？

スマート農業とは？
(農林水産省の定義)



- ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業
 - ロボット技術
 - 衛星を活用したリモートセンシング技術
 - クラウドシステム など

SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

